

Ⅲ-5

自立活動の指導とは

(1) 自立活動の指導の意義

小・中学校等の通常の学級における教育は、児童生徒の発達の段階等に即して配列された教育の内容を生活年齢に即して順に教育することにより人間として調和のとれた育成を図ることが期待されています。

しかし、障がいのある児童生徒は、各教科等において育まれる資質・能力の育成につまずきなどが生じやすいため、個々の障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服するための自立活動の指導が設定されています。自立活動の指導は各教科等において育まれる資質・能力を支える役割を担っています。



自立活動の指導ってどんな指導ですか？

自立活動の指導は、障がいのある児童生徒が、勉強したり、生活したりする中で、「障がいによって困ること」を改善したり、克服したりするための指導です。



詳しくは

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）P21



どんなことをしたらよいのですか？

自立活動の指導は、6区分27項目から、児童生徒の実態に応じて必要な項目を選定し、指導内容を考えます。



詳しくは

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）P50

(2) 自立活動の内容

自立活動の内容は、「人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素」と、「障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素」で構成されており、それらの代表的な要素である27項目を「健康の保持」、「心理的な安定」、「人間関係の形成」、「環境の把握」、「身体の動き」及び「コミュニケーション」の六つの区分に分類・整理したものです。自立活動の内容は、各教科等のようにそのすべてを取り扱うものではなく、個々の児童生徒の実態に応じて必要な項目を選定して取り扱うものです。具体的な指導内容を考える際には、児童生徒の実態を踏まえて、自立活動の様々な項目を関連付ける必要があることに十分留意することが大切です。

教科の内容の示し方	自立活動の内容の示し方
<ul style="list-style-type: none"> ①標準的な発達を踏まえている。 ②具体的な指導内容そのものを示そうとしている。 ③すべての指導を行うことが前提である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①標準的な発達に対応する考え方はない。 ②具体的な指導内容の構成要素を示している。 ③内容は必要に応じて指導するメニュー方式である。

(3) 自立活動の指導のポイント

- ① 個々の児童生徒が自立を目指し、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする取組を促す教育活動です。
- ② 授業時間を特設して行う自立活動の「時間における指導」を中心とし、各教科等の指導においても、「時間における指導」と密接な関連を図って行います。
- ③ 個々の児童生徒の的確な実態把握に基づき、指導すべき課題を明確にすることによって、個別に指導目標や具体的な指導内容を定めた個別の指導計画を作成します。
- ④ 個別の指導計画に基づく自立活動の指導は、個別指導の形態で行われることが多いですが、指導目標を達成する上で効果的である場合には、児童生徒の集団を構成して指導することも考えられます。



いつ指導するのですか。

自立活動の指導は、自立活動の「時間における指導」のほかにも、教科等の学習活動など学校の教育活動全体を通じて行うことが大切です。



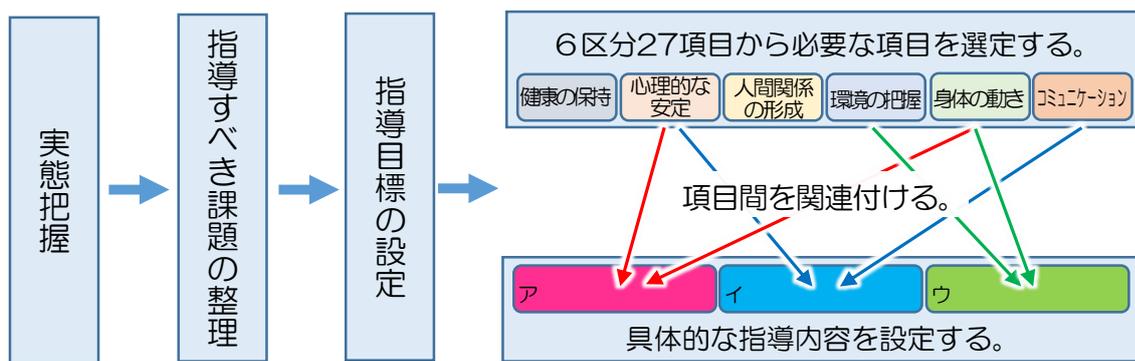
詳しくは

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）P44



具体的な指導内容はどのように決めるのですか？

実態把握から、課題を明確にして、指導目標を立てます。そして、6区分27項目から項目を関連付けて具体的な指導内容を設定します。



詳しくは

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）P28



平成29年度の学習指導要領の改訂では、特別支援学級においても、自立活動を取り入れることが規定されました。

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編では、実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例として「流れ図」が示されていますので、参照してください。

